社外監査役メッセージ

コーポレート・ガバナンスの向上に向けて

― 社外監査役から見たYKKの理念経営とガバナンス ―

グローバル企業としての内部統制を評価

社外監査役
新井 佐恵子 氏

複数の会計事務所での会計監査、税務業務に従事後、IT系ベンチャー企業を共同創業者と起業し、日本企業初の女性CFOとして経理、総務、人事システムを一から構築、事業計画、資本政策、資金調達等に携わる。ホテルウェディング業、環境エネルギー業等のCFOおよび取締役、顧問等を歴任。現在、有限会社アキュレイ代表、株式会社teamS社外監査役、花王株式会社社外監査役、一般社団法人生涯健康社会推進機構副理事長、白鴎大学特任教授、コニカミノルタ株式会社社外取締役。

非上場企業でありながら高レベルの体制を構築

社外監査役
南 晃 氏

丸紅株式会社にて財務、会計に従事し、株式会社ダイエーにて取締役、丸紅株式会社にて執行役員、常務執行役員、代表取締役常務執行役員、監査役を歴任。現在、フロンティア・マネジメント株式会社社外取締役。

「善の巡環」の本質理解と実践が未来への鍵

社外監査役
森田 恒平 氏

森・濱田松本法律事務所にて、長年にわたり弁護士として、M&A、コーポレート・ガバナンス、危機管理等の企業法務に携わる。現在、森・濱田松本法律事務所外国法共同事業パートナー弁護士、京都大学法科大学院 非常勤講師。

社外監査役の活動状況（2024年度）

	4月			7月	
監査役会関連（主な議題）	前期監査意見総括	監査役会 監査報告書	議長選定	会計監査人の報酬同意	
	内部統制状況の確認（事業執行部門から個別課題の報告）				
その他 監査活動	内部監査期末報告	代表取締役意見交換			代表取締役意見交換
	内部監査個別報告・内部監査立合（年間適宜）				

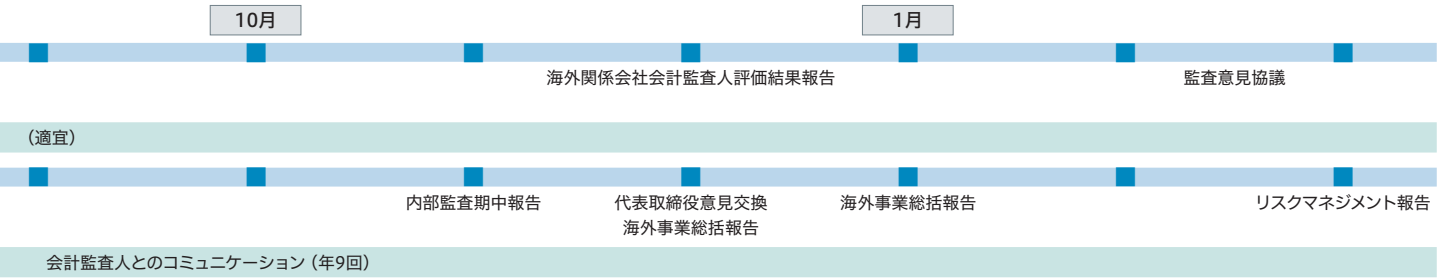
2023年度に社外監査役に就任された新井監査役に加え、2024年度から新たに南監査役と森田監査役が就任されました。YKK精神「善の巡環」に基づいた理念経営、そしてコーポレート・ガバナンスの向上に向けて、社外監査役のお立場からご意見をいただきました。

監査役に就任して2年が経ちますが、YKKのガバナンスは着実に進化し続けていると感じます。役員構成はスキル、知見等の多様性が確保されていますし、取締役会・監査役会ともに、誰もが気づきを率直に共有できる雰囲気が醸成されており、総合的に適切な運営がなされていると評価しています。また、2023年度から運用を開始したYGIA（YKK Global Improvement Activity）は、内部統制体制の構築とその有効性において、ベストプラクティスと言えるものです。世界中にネットワークを持つグローバル企業として、内部統制の有効性において更なる高みを目指してほしいと願います。

グローバル市場の拡大と新規事業展開がますます重要となる今、特に求められるのは、失敗を恐れずに挑戦し、その経験から学び、次の行動へとつなげていく「リーンスタートアップ」型の人財です。過去から現在、そして未来へと受け継がれるYKK精神「善の巡還」のもと、更なる挑戦を続けていくことに期待しています。

2024年6月に監査役に就任しました。これまでの企業経営に関する経験と知見をもとに、取締役の執行を適切に監査し、ガバナンス強化に貢献していく所存です。

YKKの「いろいろな意見を良く聞き、経営判断に活かす」姿勢は素晴らしく、非上場企業でありながら極めて高いレベルのガバナンス体制が整っていると感じました。また、事業活動において新たな挑戦をしていく中では、個々人の勘や感覚が重要な局面もあります。それをいかにうまく組織の意思決定プロセスに融合していくかが重要だと思います。YKKは非上場企業であるがゆえに、媚びることなく凛とした姿勢を貫くことができる会社です。単なる「良い会社」を超えて、世界から尊敬される可能性を持つ数少ない日本企業の一つだと思います。社員一人ひとりが「自分たちのつくる商品が世の中のためになっている」という強い意識を持ち、それが「善の巡還」の精神と深く結びついている、その奥深い企業文化こそがYKKの強みと言えるでしょう。

監査役を務めるようになり、経営陣や社員の皆さんが「善の巡環」を頻繁に口にされる姿が印象的です。この言葉を繰り返すことで、皆さんの行動や意識に影響を与えてきたことがよく理解できます。営利企業でありながら「善」というもう一つの軸を持ち、その理念の実践が深く浸透していることに感銘を受けました。

ガバナンスに関しては、取締役会での議論は非常に活発で、一つの議題に対して全役員が積極的な姿勢で議論を尽くしています。社外役員からの質問・意見に対しても経営執行陣には真摯に耳を傾けていただき、次回以降必ずフィードバックがあります。現在、国際情勢を含めて大きな変化の時代を迎え、各企業の真価が問われています。YKKがエクセレントカンパニーであり続けられるかは、社員が「善の巡還」の本質を深く理解し、自ら実践していくことが鍵になります。「これが自分の会社である」という明確な意識を持って、各自が行動していくことが期待されます。